

第 74 号 2025 年 11 月

# The☆すぺしゃりすと

## CONTENTS



- |                                |    |
|--------------------------------|----|
| □ 始動!! 「CC」未来アクション             | 1  |
| ■ スペシャルニーズプログラム講座 実施報告         | 1  |
| □ サークルズのとりくみ                   | 3  |
| ■ オンラインセミナー報告                  | 4  |
| □ 学生インターンシップを迎えて               | 5  |
| ■ 日本の CAP30 周年事業/セミナー・CAP 川柳   | 9  |
| □ ORANGE WALK2025 (児童虐待防止推進月間) | 11 |
| ■ メルマガ「最新情報」を活用しよう!!           | 12 |
| □ 編集後記                         | 13 |



いつでもどこでも子どもの権利を当たり前!  
Sustainable Action for Children's Rights by All(SACRA)

## 2025 年度トレーニング

# 始動!!「CCJ 未来アクション」～次の 20 年を見据えて～

本年 2025 年 5 月 31 日の総会で、皆さんにお知らせした「CCJ 未来アクション」が 6 月 25 日に第 1 回オンライン学習会の開催をもってスタートしています。今年度は、毎月第 4 水曜日に開催しています。各地の CAP スペシャリストが 20 名ほど画面上に集まり、その時々のお題を考えながら、話しながら、そして共有しつつ毎回楽しく進めています。

### ◆オンライン学習会からスタート◆

CCJ 未来アクションは、4～5 年という長い時間をかけての取り組みです。その第一段階が「オンライン学習会」です。なぜ、長期的な次世代育成を考えたかということ、トレーナーとして受講者の前に立つには、下支えとなる考えがしっかり自分の中に落ちていること、自分の言葉でアウトプットできること、同じ立場の仲間と信頼し合え、率直に語り合える関係性を作っていく事でトレーナーという大役を担えろと考えたからです。

トレーニングセンターでありながら、本格的に人材育成をするのは、CAP センター・JAPANとしては初めてです。多くの CAP スペシャリストに関心を寄せてもらい、アイデアを頂きながら臨んでいきたいと思っています。

### ◆「CCJ 未来アクション基金」の創設◆

来年からは、現在オンライン学習会に参加しているメンバーが、養成講座等に同行していきます。それを行うには、交通費・宿泊費などの経費が必要です。令和の今、手弁当で自腹を切った活動をしていく時代は終わっています。これからの人たちが、お金の心配をせずに思い切り活動できる環境を整備しようと思い、「CCJ 未来アクション基金」を今回創設しました。たくさん子どもたちに CAP が届けられる人材の養成に、CAP の未来に皆さんにも投資をして欲しいと思っています。

CAP トレーナー 西村説子

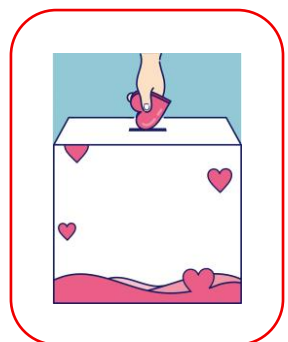
「CCJ 未来アクション基金」と明記の上、以下の口座に応援の気持ちをカタチにしてください。

ゆうちょ銀行口座 00910-4-86716

他金融機関からの振込用口座番号は以下になります。

ゆうちょ銀行

〇九九（ゼロキュウキュウ）店（099）当座 0086716



## スペシャルニーズプログラム講座 実施報告

“障がいとは？” あらためて知り、学び合い、深めあった 3 日間  
『知的障害のある子どもへの CAP プログラム』を学ぼう！

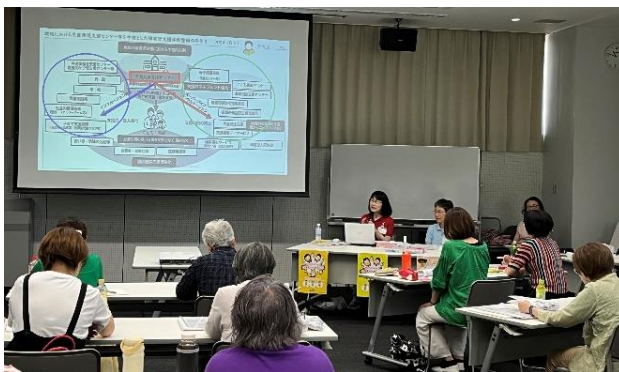
2025 年 7 月 12 日（土）オンライン講座、20 日（土）、21 日（祝・日）対面講座の計 3 日間、スペシャルニーズプログラム講座を実施し、8 グループから 13 名の受講者と 3 名のフォローアップ受講者、計 16 名が参加されました。

皆さんは、普段から“障がい”について考える機会をお持ちでしょうか？日常生活の中で、障がいのある方々を見かけることはあっても“触れ合ったり、話をしたりすることは、これまでなかった”という方もいらっしゃるかもしれません。本講座は「知的障がいのある子どもの人権が尊重され、知的障がいのある子どもへの暴力のない社会をめざし、スペシャルニーズプログラムを提供する実践者を増やす」ことを目的に開催しました。

初日のオンライン講座では、『障がいの定義』について国際生活機能分類から学びを深め、『障がい者運動の歴史や法律』を知り、“障がい”について改めて考えることからスタートしました。障がいの定義について、この紙面でも少しご紹介します。

2001 年 5 月に世界保健機関（WHO）で採択された国際生活機能分類は、障がいを個人の問題としてとらえる「医学モデル」と、社会によって障がいがあるとされる「社会モデル」が統合されたモデルで、様々な要因が互いに影響し、障がいが発生・解消するという考え方です。障がいをこの視点で見えていけば、障がいがあっても環境が変わり、社会が変われば生活がしやすくなることは明かです。なぜなら、そもそも社会の側に障壁があるのですから。（だから、社会を変えるためのおとなワークショップは大切なんですよ。）

こうした講義内容から“障がい”についての共通理解を深め、2・3 日目の対面講座では、知的障がいのある子どもを対象としたプログラムの実践に向けた知識を得て、模擬ワークショップを体験、ロールプレイ等を練習しました。



受講されたスペシャリストの方々の感想を紹介します。

- ◆ まずは障がいということを知り、深く理解しないと前にすすめない。わかっていたつもりであったことも、理解できていなかった自分に気づくことができた。
- ◆ 障がいのある子どもたちが、社会の中で力を持たされていない状況を改めて感じた。子どもにもおとなにも、必要な情報だと思った。
- ◆ 自分の偏見や思い込みを思い知った。暴力に対する脆弱さの要因に、自分自身の行動も繋がっていることを知れた。

さらに今後の講座に向け、トレーナーにもエールと宿題も頂きました。

- ◆ テキストやスライドがすっきりと整理され、非常に、インプットすることが容易だった。
- ◆ またトレーナーのチームワークも非常に良く気持ちよく参加することができた。
- ◆ スペシャルニーズプログラムはシンプルに、センテンスも短く表現している訳ですが、トレーナーも抽象化されて具体性に乏しいところがあった。更にご尽力のほどよろしくお願ひしたい。

久しぶりの講座開催でしたが、今回は、これまでのスペシャルニーズプログラム講座時間を 3 時間延ばし、実践に向けた練習時間をたっぷりとの 3 日間 21 時間としました。来年も講座開催予定です。皆さん、日頃から意識して障がいのある方々に出会い、講座で一緒に学びませんか？皆さんとお会いできることを楽しみにしています。

CAP トレーナー 宇原敏子

## サークルズのとりくみ

### 一緒に「子どもへの暴力防止」とあわせて 「人との交流安全」をめざしませんか

6 月 29 日（日）に『「人との交流安全」実現におけるブラッシュアップと情報共有講座 2025』をオンラインで実施しました。2023 年度からのサークルズプログラム®実践者養成講座 STEP 1（以下、STEP 1）の修了者 44 人の方を対象に開催したものです。2 年間、3 度の STEP 1 によって進化した部分、さらに地域でのサークルズおとなセミナー実践へのグループサポートの中で整理してきた言葉の定義や構造図などの資料の情報共有を行い、実践者の理解のブラッシュアップを図りました。2021 年度からテキストの翻訳作業、日本の文化、CAP が取り組むうえでの整合性などを考えながら監修し、修了者の皆さんの地域での実践に助けていただき、チームとしてわかりやすい言葉、資料のブラッシュアップに取り組んできました。“今ここ”を共有し、後半に 2 グループに実践報告をお願いしました。

2023 年 12 月～2025 年 6 月末までに「サークルズおとなセミナー」を実践されたのは、7 グループで 20 回計 394 人が参加されています。その実践の中から、乳幼児期の子どもの保護者対象の実践を CAP にしのみや、児童養護施設職員対象の実践を CAP みえから報告をしていただきました。実践のなかで感じた手応えやグループサポートについてなどをインタビュー形式で伺い、実践によるご自分たちの意識の変化も語ってくださいました。

今年度後半には、子育て支援センターや児童養護施設からの依頼に対するグループサポートを予定しています。児童養護施設からの依頼は、ネット情報の検索で CAP センター・JAPAN のホームページの「人との交流安全」をキャッチされたとのこと。確実にニーズはあり、それにお応えできる体制を整えることが急がれます。歩みを進めるうえでの課題は山積みですが、まずは CAP スペシャリストの方に関心を持っていただくため、動画作成、ミニセミナー（無料・オンライン）の開催を計画しています。

9 月実施予定が延期となったサークルズプログラム®実践者養成講座 STEP 2（以下、STEP 2）は、2026 年 3 月 21 日（土）・22 日（日）に対面講座の大阪開催が決定。また、東京は、STEP 1 の対面講座を 2026 年 2 月 22 日（日）・23 日（月・祝）、STEP 2 の対面講座を 2026 年 7 月 19 日（日）・20 日（月・祝）に開催予定です。STEP 1、STEP 2 とともに事前に予備講座をオンラインで実施し、対面講座後にはフォローアップ（4 回・オンライン）を予定しています。

一緒に「子どもへの暴力防止」とあわせて「人との交流安全」をめざしませんか。



## ※サークルズプログラム®STEP1養成講座

修了者は、「サークルズおとなセミナー」（目的：おとなが一人ひとりにあるけんりとバウンダリーを認識し、“わたしは大事。あなたは大事。”を日常で実現するための考え方を手にし、その環境を整える）の実践ができる。

## ※サークルズプログラム®STEP2養成講座

「サークルズおとなチャレンジ」

（目的：おとなが子どもと共に、けんりとバウンダリーをベースにサークルズを活用し、“わたしは大事。あなたは大事。”を実行。子どもの人権意識を育み、バウンダリーの確立を手伝う日常にチャレンジする環境を整える。）と「サークルズ子どもワークショップ」（目的：子どもが“自分だけの紫色サークル”を中心としたサークルズとロールプレイを通じて、“わたしは大事。あなたは大事”の実現のための考え方を手にする）の実践ができる。

チーム・サークルズプログラム



## 【セミナー参加人数と開催回数実績】

|                                 | 参加人数  | セミナー回数 |
|---------------------------------|-------|--------|
| 2023 年度（12 月末～2024 年 3 月末）      | 86 人  | 4 回    |
| 2024 年度（2024 年 4 月～2025 年 3 月末） | 255 人 | 13 回   |
| 2025 年度（2025 年 4 月～2025 年 6 月末） | 53 人  | 3 回    |
| 合計                              | 394 人 | 20 回   |

## オンラインセミナー報告

## 幼児期の子どもの安心・安全センサーを育てるために

8 月 3 日に、フランス在住でフランスの子ども家庭福祉を研究されている安發明子（あわあきこ）さんにご講演いただきました。

日本の幼児期の子どもの親世代が、「子どもはけんりをもった存在」であることが当たり前のフランスの子育ち事情を知ること、子どもが幼い頃から日々の生活に子どものけんりという視点を取り入れて、子どもが自分らしく生きられるようにという思いから、JR 西日本あんしん社会財団による助成事業「小 1（幼児期）親子の安心・安全を支える事業」の一環として実施しました。

### ◆すべての基準は子どもの権利の保障◆

安發さんは、ご自身の体験として日本からフランスに移住して妊娠・出産されました。いろんな不安はあったそうですが、妊婦の頃から専門職によってきめ細かくケアされ、出産後も親子のそれぞれが丁寧にケアされたそうです。例えば、誕生して間もない子どもにも、からだに触れるときは声を出して説明をすることはもちろんのこと、子どもは生まれたときから意思ある一人の

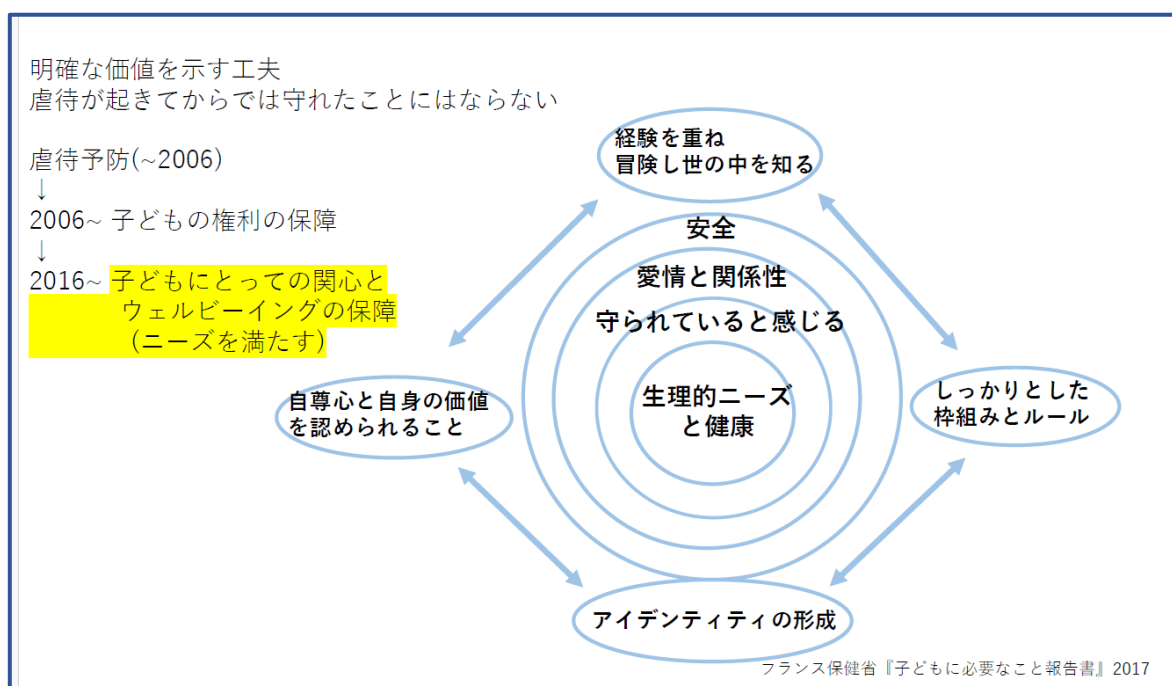
人間として尊重されることが徹底されています。“国がすべての子どもの父”と言われるように、子どもを育てる責任は国としています。子育ての目的は、幼少期から自分で考え、議論できる市民を育てることにあり、子ども政策は、子どものニーズを基準にして権利を損なわないように支援することが大事で、日本のように、“子ども”をひとくくりにして集団の在り方を大事にするのとは違います。また、「教育の目的はその人らしさの開花」とされており、それらの姿勢はすべて、子どもは権利の主体者であることが当たり前だからこそと思えます。とくに子どもの育ちについては、以下のように考えられています。

「子どもは環境に適応して今の行動をとっている。  
 脳をつくっているのは社会と経験。  
 社会化の過程で習慣や適応を身につける。  
 行動の一番の要因は経験。  
 すべての行動が環境との相互関係の中で起きている。  
 遺伝や個性ではなく、教育と関わりが子どもをつくる。」



### ◆子どもの心配事に手当てする◆

併せて、幼い頃に虐待的な環境に置かれることは、その後の人生に大きく影響することも報告されており、国にとっても虐待対応の支出は毎年 5700 億円にものぼるため、フランス社会全体の健康予防・パブリックヘルスの問題として対応しようとしています。2007 年には児童保護の大きな法改正があり、虐待に近い「悪い扱い」という言葉が削除され、「心配」基準がベースになりました。子どもの症状や観察できることを、専門家が心配ごとと受け止めたら支援を開始するという具合で、つねに子どもの権利の保障、ウェルビーイングの保障（ニーズを満たす）という考え方が徹底しています。虐待が起こってからの対応では、子どもと子どもの権利を守れたことにならないので、日本の虐待対応は 4 分野（身体的・性的・心理的虐待、ネグレクト）の起こったこと（出来事）に対して対応するという点では、子どもの SOS の程度の受け止めが大きく違います。



## ◆自分の気持ちを大事にする◆

保育園での生活も日本とは大きく異なります。

例えば、3～4歳児用の目標は、好きな絵本をクラスみんなに紹介し、他の子どもからの反論に対応するといったこと、自分の感情が分かり説明できて解決できることといったように、子どもの話は必ず信じられ、子どもが力をつけていくことをサポートされます。他人から評価される自分ではなく、自分にとっての価値を育てることに注目されます。つまり、つねに自分を軸にして、自分の価値を下げるようなことがら（悪い誘いや暴力）には、迷わず「No!」と言うことが当たり前を受け止められているのです。フランスにはイヤイヤ期、4歳の壁といったことばもありません。

日本では多く聞かれる「あなたは何かできるの?」といった周りと比較されがちな質問(評価軸)ではなく、「あなたは何か好きなの?」と自分の気持ち・感覚がまず大事にされることで、「自分の人生は自分のもの。自分はけんりの主体者である。人生の責任者である」ことを実感する生活が当たり前になるのです。幼い頃から自分に権利があると知っていることは、おのずと日々の暮らしが安心・安全に暮らせるセンサーになっていることを確認しました。

く 参考：安發明子さんのサイト <https://akikoawa.com/> く



「NO!」と言えるようになるための絵本  
ゆまに書房 2025 年 4 月発行

## 事務局の報告

### この夏、初めて学生インターンシップを迎えました

8月から9月中旬にかけて、この夏初めて、大学生2人をインターンシップに迎えました。NPO法人ドットジェイピーのスタッフ（大学生）と、3月に神戸で行われた「民主主義ユースフェスティバル」で名刺交換したことがご縁となりました。

世の中をよくしようと動く者を増やしたい。

多くの者が、自分が世の中を変えるという「リアリティ」が感じられないのが現状。

私たちドットジェイピーは、

ソーシャルセクターで活躍する方々と共に働く NPO・NGO インターンシッププログラムを通して、若者たちに当事者意識を持たせ、「自分には何かできるのか」を模索する機会を提供したい。

その先に「社会課題解決に参画する」といった現象を生み、世の中がよくなると信じている。

<https://www.dot-jp.or.jp/>



2か月で70時間以上を使って、CCJの活動をどうお手伝いしてもらうか・・・子ども支援のNPOと言っても、子ども食堂や学習支援と違い、直接子どもと接することのない事務的な仕事なので、その地味な作業にどうやって充実感や達成感をもってもらい、私たちにとっても仕事を手伝って

もらって助かった、良かったと思えるように作業メニューを検討しました。そして、何より若者が、人権や暴力防止について学ぶことで、今後より良い生活を送るためのヒントにしてほしいと考えました。

まず 8 月 3 日に実施したフランス在住の安發明子さんのよるオンラインセミナー「幼児期の子どもの安心・安全センサーを育てるために」に参加してもらい、「日本って暮らしやすい国だと思っていたけど、案外そうでないことが分かった」「フランスの制度を知ったことで、今後の自分の専門（心理学）に活かせる」といった感想を共有してもらったので、日本の現状・課題を伝えることから始めました。そして、2 週間は講座のアンケート集計と、資料の印刷製本、「子どものけんり なんてやねん！すごろく」のセットといった作業をお願いしました。Excel のスキルアップをめざし、繰り返す作業は必ず振り返り、次の効率化を意識してもらうようにしました。また、アンケート記述などで目にしたけど意味がわからない言葉を出してもらうことで「アタッチメント」「アサーション」といった用語の説明をしたり、ときにミニ講義をしながら、私たちの活動やめざすことを深めてもらうことができました。

インターン後半は、これまでの学びを踏まえて、私たちの活動を支える企画をしてほしいとお願いし、お一人は「ORANGE WALK2025」の学生向け広報チラシを、もう一人は「子どものけんり」に関する 1 分動画を 2 本制作されました。現在、ORANGE WALK の真っ最中ですので、気軽に参加してほしいという意味で「社会貢献デビュー」をキーワードにしたチラシはすでにご覧になっていると思います。動画「子どものけんり」もホームページで掲載しています。

以下は、インターン生お二人の感想文です。人を育てるには準備も必要なので、たいへんだと感じることもありました。やりとりのなかで出された意見は新しい着眼点であることも多く、事務局スタッフ自身の成長にもつながる貴重な経験ができたと思っています。



## ◆インターンシップ体験の感想◆

この夏、私は CAP センター・ジャパンのインターンに参加させていただきました。

心理学を学ぶ中で、子ども支援の現場を体験したいと思っていたことや、高校時代から子どもと関わるボランティア経験があることから、裏方作業でも子どもたちを支える力になれるのではないかと感じ、参加を決めました。

インターンでは、すごろくの子ども権利条約条文カード（以下、条文カード）の整理、アンケートの入力、イベント用のチラシ作りなど、裏方の仕事を中心に体験しました。条文カードを整理する中で、子どもの安心・自信・自由という大切な権利を改めて理解でき、教科書だけでは得られない実感を味わえました。また、貸していただいた CCJ ブックレットを読むことで、子どもの発達やアタッチメント、基本的人権についての知識を深めることができたのも貴重な経験です。理事会で発表の機会もいただきましたが、普段なら自分から発表することはないので、とても緊張しました。それでも、温かい雰囲気の中で話を聞いてもらえたことで、少しずつ自信を持



って話せるようになり、自分の成長を実感できました。チラシ作りでは、自分が考えたデザインや文章が形になり、現在はスタッフの方に引き継いで細かい修正をお願いしている段階です。

作業中には、スタッフの方とほのぼのとした会話をしながら進める時間もあり、安心して作業できる環境だったことも印象に残っています。こうした経験を通して、裏方作業だけでなく、責任を持って物事を進める力や判断力、チームで協力して作業する力も育まれたように感じます。

この夏を通して、普段気づかなかった自分の一面や、協力して何かを作り上げる喜び、そして自信を持つ楽しさを実感できました。大学で学ぶ知識と現場での体験が結びついたことで、子どもたちの未来に関わる意味をより強く感じられた、とても特別であたたかい時間になりました。

近畿大学1年 井上和奏



#### ◆CAP センター・JAPAN の活動に参加して◆

僕は、NPO 法人ドットジェイピーさんを通じて CAP センター・JAPAN の活動を知り、参加する機会を得ました。最初は、子どもに対する暴力防止が主な活動内容だと思っていました。ネグレクトや性暴力の存在自体には驚きませんでした。それが「親の問題」だと考え、どう解決するのか疑問に感じていました。しかし、活動を進める中で、単に「親を注意すればいい」といった簡単な問題ではないことがわかってきました。子どもの気持ちや主張に気づきたくても気づけない親もいて、しかもその多くは悪意があるわけではなく、時代の価値観に縛られている場合があります。たとえば、かつては当然とされていた「妻は主婦として働くべき」「男の子は男らしく生きるべき」といった考えが、今では一つの問題として意識されはじめています。

そうした中で、子どもが「自分らしく生きる」ことを支援するのが、CAP センター・JAPAN の活動の本質なのだと理解しました。オンラインで受けた講習では、日本の現状と、フランスにおける支援環境の整備状況の違いに驚かされ、自分の知識の狭さを痛感しました。問題を「親が悪い」「子が悪い」と単純に決めつけるのではなく、その背景にある環境をしっかりと見極めて対応していくことの大切さを学びました。

特に印象に残っているのが、「安心」「自信」「自由」という三つの言葉です。シンプルだからこそ記憶に残りやすく、子どもにとって本当に大切なものだと教えてもらいました。また、この順番にも意味があることを知りました。「安心」が土台にあることで「自信」が育まれ、そしてその先に「自由」がある——この考え方にはとても納得させられました。

もう一つ心に残っているのが、子どもの権利条約関西ネットワーク開発の「なんでやねんすごろく」です。大学生の自分でも、実際にやってみると考えが深まったり、今まで当たり前だと思っていたことに新たな疑問を持つきっかけになったりと、とても面白く感じました。難しい内容ではなく、大人にも子どもにも有益なプログラムだと思います。皆で「なんでやねん」と声に出

すのは少し照れくさかったですが、実際にそうした場面に出くわしたときに、子どもが自分の考えを臆せず発言する練習になるのではないかと思います。

関西大学 1 年生 松本直哉

## 日本の CAP30 周年事業

### 日本の CAP30 周年事業 / セミナー・CAP 川柳



今年は日本で CAP 活動が始まって 30 年の節目にあたり、理事会ではさまざまな企画をしています。ぜひご参加ください。

#### ◆CAP クロストーク◆

クロストークは子ども支援に携わる専門職の方をお招きしてお話を伺うとともに、その専門に近い理事が登壇し、伊藤理事長の進行で意見交換をします。平日の夜 1 時間ほどのオンラインセミナーで、第 1 回は 10 月 16 日（木）に「社会的養護の現場での CAP 実践」をテーマに実施し、第 2 回は 12 月 11 日（木）に「地域の子どもの居場所を考える」をテーマに、第 3 回は 2 月以降に「子どもの権利を当たり前（仮）」をテーマに実施する予定にしています。

第 1 回は、「社会的養護の現場での CAP 実践」をテーマに、児童養護施設みどり自由学園の副施設長である砂川辰介さんからお話を伺いました。砂川さんが 10 数年前に入職したときにはすでに CAP みえのメンバーが同学園に CAP ワークショップを届けており、今も毎年（コロナの影響で中止の年もあり）実施されています。以下に概要をまとめます。



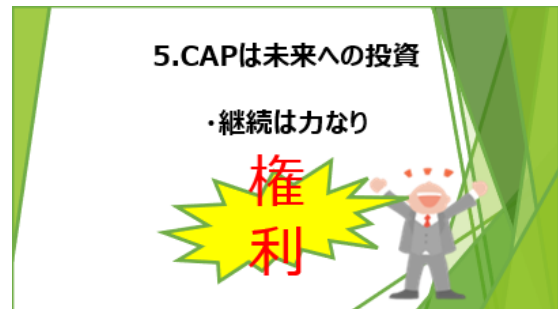
入職当時は、けんかや暴言など暴力性の高い子どもが多かったため、職員はどうしたら子どもに暴力をさせないようにするかを考えていたが、子どもには自分を守れる力があると、CAP の理念であるエンパワメントの考え方を知り、それを信じて、根気よく、粘り強く、諦めずに子どもと一緒に暴力をなくすことを考えるようになっていった。

子どもたちには、「安心」「自信」「自由」のフレーズはたいへんわかりやすいし、「暴力をするのも受けるのもダメ」という学びは、入所するまでの生活では学んでこなかった。CAP を通して職員と共通認識・共通言語を持つことで、生活の中で起こるトラブルが振り返りやすくなり、話で

解決する姿勢を持てるようになり、CAP の効果を感じている。施設内で「暴力はあかん」という声がよく聴かれるようになり、すでに CAP を受けている子どもが、後から入所してきた子どもの様子を見て「あいつには CAP を受けさせたほうがいいよ」と職員へ声かけしてくることもあった。さらに、子どもたちは毎年 CAP の人と会うことで顔なじみになり、施設の外にも自分たちのことを思ってくれる人がいることに安心を感じている。

職員にとっても、支援の幅が広がったと感じる。10 数年の継続で、職員の意識も大きく変わり、何があっても「暴力は認められない」という姿勢を貫くようになり、意識から行動に代わっていった。CAP のほかにも人権擁護の取り組みを行っているが、その取り組みにゴール・終わりはない。習得したスキルや権利擁護の情報をどう維持するか、アップデートやブラッシュアップし続けることが必要と思っている。権利擁護の基盤づくりとしては、学園に入職したすべての職員は、職員ワークショップを受けて現場に入るので、職員の人材育成にもなっている。

CAP の取り組みは未来への投資でもある。子どもの成長のペースが一人ひとり違うように、人権を習得するペースも違うし、また、子どもの状況も以前とは変わり、ニーズに合わせて継続していく視点を持つことが大事。やるかやらないかではなく、権利擁護を標準化した上で、どのように続けていくか、どのようなニーズに応えられるかを職員が前向きに議論することが大事になってくる。子ども権利擁護委員会の取り組み、トラブルがあったら記録にあげ報告する、子どもの声を聴く、子どもの視点で考えるため子どもと一緒に考えるー継続するために職員の取り組みが大事である。



## ◆CAP 川柳◆

理事会では活動啓発を目的とした川柳づくりに取り組み始めました。9 月からこれまで 4 回計 12 の川柳を Instagram に掲載しました。「CAP での出会いやそのとき感じたこと」「子どもとの生活」「子どもと学校」「子どもと地域」などのカテゴリーで思いついたことをしたためています。一度ご覧ください。そして、フォローをお願いします。

<https://www.instagram.com/safestrongfree>



川柳をつくったことがあるという皆さん！

5・7・5 に言葉をしたためるのはおもしろそうと感じる皆さん！

皆さんからも、CAP プログラムの良さ、活動の大切さを伝えるためのご投稿をお願いします。まずは以下のフォームをご覧ください。



<https://forms.gle/NLq4udx4RreAcnih9>

なお、掲載については、事務局で選択していくことをご了承ください。

## ◆公開セミナー◆

定時総会翌日 6 月 1 日に大阪で実施しましたが、今回は 1 月 12 日午後東京で実施します。  
11 月中には広報を開始します。同日午前中は、CAP スペシャリスト研修を行いますので、多くの方のご参加をお待ちしています。

日 時：2026 年 1 月 12 日（月・祝）13～16 時

テーマ：子どもの権利を当たり前！

～CAP がみてきた 30 年、ウェルビーイングに向けて次のステージへ～

会 場：国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区代々木）

登壇者：

奥山 真紀子さん（前日本子ども虐待防止学会理事長／小児精神科医）

早川 悟司さん（社会福祉法人 子供の家 本部・理事）

重永 侑紀（CAP トレーナー／NPO 法人にじいろ CAP 代表（福岡県））

進行：

伊藤 嘉余子（CAP センター・JAPAN 理事長／大阪公立大学教授）



## 児童虐待防止推進月間

# ORANGE WALK2025 にご参加ください

毎年 11 月に実施される「児童虐待防止推進月間」は、児童虐待問題に対する社会的関心を高め啓発活動を行う月間です。2024 年度の全国児童相談所における児童虐待相談対応件数は、225,509 件（こども家庭庁調べ）となり増加の一途をたどっています。児童虐待相談の相談経路は、警察等が最も多く、次いで近隣・知人、家族・親戚、学校です。このことから私たちおとなが子どもの状態に関心を寄せて相談することが虐待発見や防止に繋がっていることがうかがわれます。

子どもが虐待にあわず、安心・自信・自由な気持ちで生きられるように、この 11 月は「オレンジリボン・児童虐待防止推進キャンペーン」に取り組んでみませんか？

CAP センター・JAPAN が、児童虐待防止に取り組む団体に寄付を届けるイベント「ORANGE WALK 2025（以下 ORANGE WALK）」の支援先団体の一つとして活動するのも 4 年目になります。

10 月から CCJ のホームページで ORANGE WALK の告知をしたり、X（旧ツイッター）での投稿をしたりと呼びかけています。CAP スペシャリスト活動会員の皆さんにもぜひご協力していただければと思います。

スマホを持って歩くだけ！その歩数が CCJ への支援につながります！

よろしければお知り合いにもお知らせください。一人の僅かな歩数でも大勢の人が集まれば大きな数の歩数になります。ORANGE WALK は虐待予防に歩いて貢献できるイベントです。

あなたの小さな一歩が子どもが幸せに生きる権利の後押しになります。

最初は専用の歩数計測アプリをダウンロードすることが必要です。CCJ のホームページで詳しく説明しています。参照してください。そして、アプリ内で CAP センター・JAPAN は（応援したい団体）を選択し、イベントに参加してください。



ORANGE WALK を国内最大の児童虐待予防アクションに！ CAP センター・JAPAN に応援を！  
子ども虐待ゼロを目指しましょう！

CCJ スタッフ 佐々木興子



登録のしかたなど、ORANGE WALK 特設サイトをご覧ください。  
<https://npojcsa.com/orangewalk/2025/index.html>



#### メールマガジン配信情報

## CCJ・RTC 通信の「最新情報」活用しよう!!

毎月第一金曜発行の CAP センター・JAPAN RTC 通信の「最新情報」を皆さん活用していますか？  
特に The☆すぺしゃりすと 74 号をネット環境で見ている方々！ぜひ CCJ の HP を見ながら読んで頂ければ操作もわかりやすいと思いますよ。

CCJ の HP⇒会員サイト（メインメニュー上部）⇒お知らせ（パスワード入力が必要です）⇒最新情報コーナー へと進んでください。そして下にスクロールして“事務局からのお知らせ・資料ダウンロード”の 2025 年 10 月 3 日の PDF を開いてみてください。「最新情報」No.186 が現れましたでしょうか。

今年度からはカテゴリーの見出しを大きくし、通常のは緑色、今月ピックアップしたものはオレンジ色でカテゴリー分けして読みやすくなっています。まずはどんな INDEX があるか確認してみましょう！興味を感じた項目はありましたか。

|                                                          |                |
|----------------------------------------------------------|----------------|
| <b>文部科学省</b>                                             | <b>P.6</b>     |
| ・デジタル教科書推進ワーキンググループ審議まとめについて（9月24日）P.6                   |                |
| ・日本語教育の推進に関する施策を総合的かつ効果的に推進するための基本的な方針（9月5日）P.6          |                |
| <b>内閣府男女共同参画局</b>                                        | <b>P.6</b>     |
| ・令和7年度 女性に対する暴力をなくす運動（9月5日）P.6                           |                |
| <b>虐待</b>                                                | <b>P.6～P.8</b> |
| ・父親の1割以上がパートナーから暴力被害、子どもの虐待リスクは2倍に…国立成育研調査（読売新聞・9月3日）P.6 |                |
| ・＜主張＞0歳0日の虐待死 妊婦の孤立に支援強めよ（産経新聞・9月29日）P.7                 |                |
| ・特別養子縁組促進へ こども家庭庁が専門家会議設置、虐待児のケアも（朝日新聞・9月30日）P.8         |                |
| <b>10月・改正児童福祉法施行</b>                                     | <b>P.8・P.9</b> |
| ・保育所などでの虐待 10月1日から通報義務化 改正児童福祉法に関する説明会（テレビ宮崎・9月26日）P.8   |                |

では、例としてオレンジ色の“スクールアトニー”を見てみましょう。P.81 P.82 と記載されているので右側のページ数を追って下にスクロールGO！

“スクールアトニー”は、いわゆる「モンスターペアレント」への対応のために大阪弁護士会で所属弁護士を派遣して対応の窓口となって問題解決の手助けする新制度が立ち上げられ、その役割を担う弁護士の呼称。8月に弁護士向けの研修を始め、担当できる弁護士のリストアップを進めているとのこと。私もこの“最新情報”で初めて知った言葉です。教師の尊厳を傷つけ、安全な労働環境を脅かす理不尽な要求や言動に対応する為の新制度の役割を担う弁護士を指す呼称なんですね。勉強になりました。

次は、緑色の“性暴力”を見ていきましょう。P.19～P.31へGO！

“子どもへの性犯罪「証拠あっても免責される。正義あるのか」 当事者団体が「公訴時効の撤廃」うったえる院内集会開催”。ここで知ったことは、性犯罪の公訴時効は5年延長され15年になったが、性犯罪被害には若年層であるほど、被害の認識に時間がかかることや自責の念や羞恥心、報復への恐怖などから申告を諦めるといった特殊性があること。韓国では2011年に「子どもへの性犯罪」は時効撤廃しており、世界の性犯罪刑罰にも関心を寄せるきっかけになりました。

CAP スペシャリストとして、昨今の子どものに関する情報をアップデートすることは幅広い活動されている皆さんの助けになること間違いなしです。ぜひご一読して欲しいです。

CCJ スタッフ佐々木興子

## 編集後記

### ◆スマート寄付アプリ『GOJO』◆



CAP センター・JAPAN は『GOJO』の寄付対象団体となりました。

簡単な操作で100円から寄付できる仕組みで、寄付額に応じてポイントもたまります。

アプリをダウンロードして登録すれば、1タップで100円から簡単に寄付ができるようになります。GOJOで寄付をすると、寄付額に応じて1%から最大30%のポイントをもらえます。

このたびPayPayでもお支払いができるようになりました。ぜひ皆さんには『GOJO』のしくみを知らせていただき、周辺の方々にお勧めください。どうぞよろしくお願いいたします。

登録等の説明はこちらへ-----

<https://gojo-good.com/about>

CAP センター・JAPAN のページはこちらへ-----

<https://gojo-good.com/orgs/216>

The★すぺしゃりすと第74号 編集者：佐々木興子・長澤雅江・長谷有美子